

2月の保健目標

感染症を予防しましょう

日本橋小学校では、今年一番の大寒波で体調を崩す児童が多くみられます。また、空気は乾燥しており、感染症が流行しやすい条件が整った状態です。2学期と比べると、今のところ感染症の報告は少ないですが、今後も警戒が必要です。

感染症の流行の兆しがあるクラスについては、①こまめな手洗いやうがい②クラス内の窓と扉の開放による換気③積極的なマスクの着用の促し④tetoruを活用した感染症流行の注意喚起を行い、感染症の流行を防いでいきます。

出席停止となる感染症

下記の感染症に罹患した場合には、医療機関で診断が出ましたら、速やかに学校へお知らせください。出席停止の扱いとし、欠席した日数は、登校すべき日数から除外します。

感染症名	停止期間	登校届提出の有無
インフルエンザ (A・B) ※時期によって流行する型が違います。診断が出ていれば、型もお知らせください!	発症日を0日として5日を経過、かつ解熱後2日を経過 (★発熱から6日目が最短登校日)	無し ★届は不要ですが、医師の指示に従って療養期間を守り、登校してください。
新型コロナウイルス感染症	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで	
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療が開始してから24時間経過し、全身状態が良好になるまで	登校届が必要 ★左記療養期間は目安となります。
アデノウイルス (プール熱・はやり目)	医師が感染のおそれがないと認めるまで	必ず医師の診断と指示に従い療養期間を守ってください。
手足口病	全身状態が良好になるまで ★主な症状が消失しても3週間程度、便からウイルスが排泄されることがあるため、トイレ後の手洗いは必須	
マイコプラズマ肺炎	症状が落ち着き、全身状態が良好になるまで	★登校届が医療機関で用意がない場合は、学校HPからダウンロードできます。
感染性胃腸炎	下痢や嘔吐の症状から回復後、全身状態が良好になるまで ★症状が治まっても便から菌が排泄されることがあるため、トイレ後の手洗いは必須	
流行性耳下腺炎 (おたふく風邪・ムンプス)	耳下腺・顎下腺または舌下腺の腫脹が出現後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	申請書ダウンロード 中央区立日本橋小学校
伝染性紅斑 (リンゴ病)	全身状態が良好になるまで (発疹があっても登校できることがあります)	

上記感染症は、児童がり患しやすいものになります。これら以外でも、風疹・麻疹など多くの感染症が、国の制定した学校保健安全法で学校感染症として指定され出席停止扱いとなっています。医師の診断と指示に従って療養してください。

不安な点や相談は、養護教諭が随時受け付けております。中島まで御連絡ください!

怪我の調査 2025

日本橋小 保健委員会

日本橋小学校の児童の自治活動の一つである保健委員会では、学校生活の改善に向けて調査活動していきます。今年度も昨年度に引き続き「小学校での怪我」を調査しました。保健委員会では、怪我の調査を行うこと

で、怪我がどういった場面で多いかを把握し、啓発や予防活動を行うことで、日本橋小全体の怪我の発生を減らすことを目的としています。

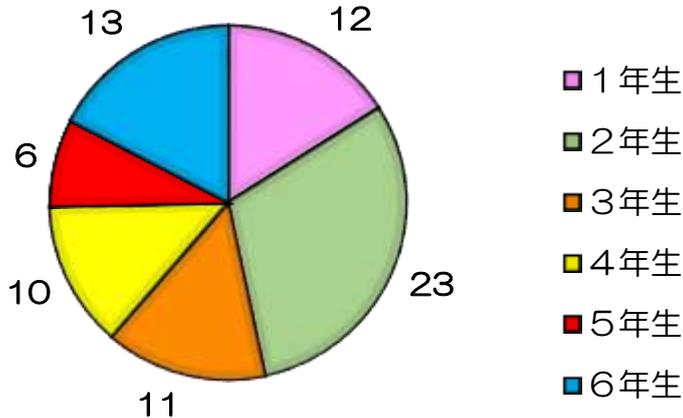
調査期間は、10月の委員会後～11月委員会までの約1か月間で、保健室で記録のとれた怪我について調査しました。

左図①怪我の発生人数から2年生の怪我が最も多く、昨年度も1年生が最も多かったので、怪我の多い学年といえるかもしれません。一方で、フロア別でみると5年生と3年生の4階の学年児童の来室は少ないため、保健室へのアクセスの良さが来室につながっている可能性もあります。

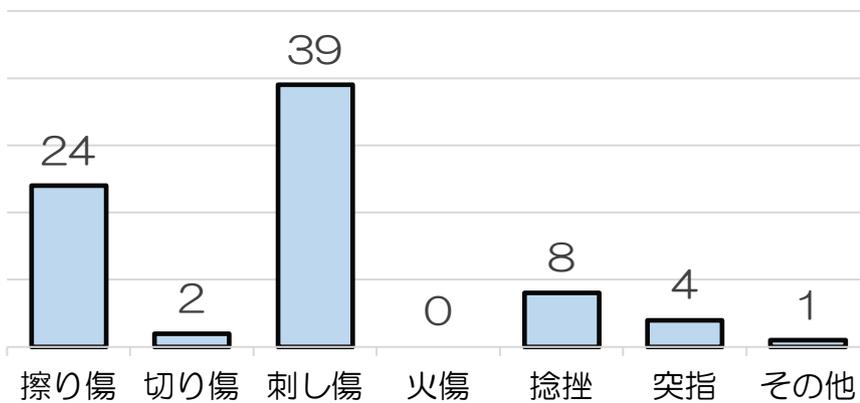
怪我の種類については、②昨年度の結果同様に、多い順に打撲、擦り傷、捻挫となっています。発生原因については集計を行っていませんが、児童同士の衝突が多いです。

怪我の発生する場合については、多くが中休み・昼休みに発生していますが、体育に次いで教室での授業が多く、図工や理科、家庭科などの実習で刃物や危険物を扱う授業よりも怪我の発生頻度は高くなっています。

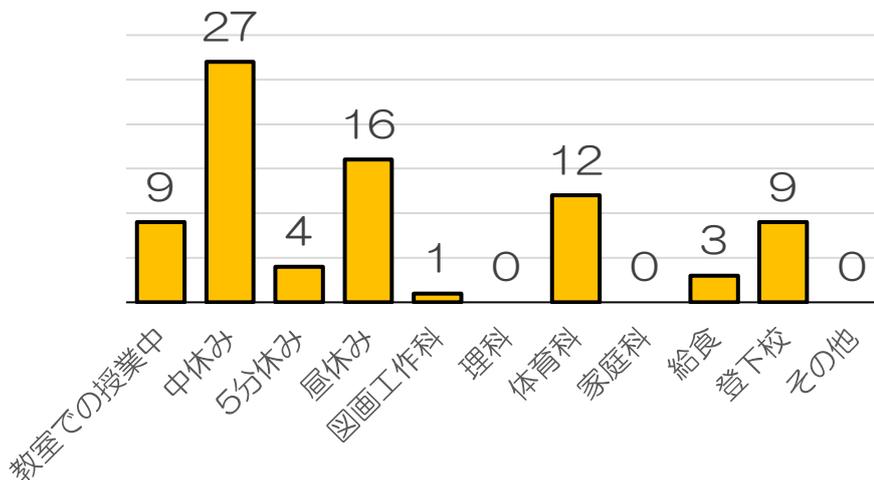
①怪我の発生人数 学年別 (人)



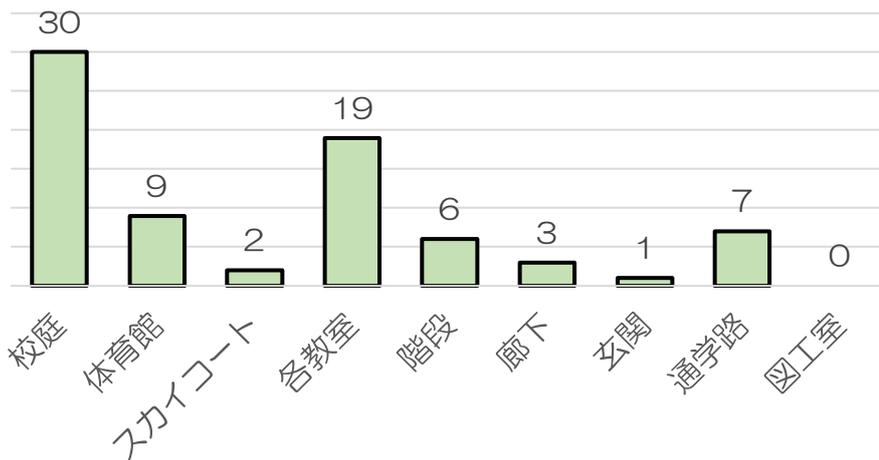
②怪我の種類 (人)



③怪我の場合 (人)



④怪我の発生場所（人）



④怪我の発生場所では、校庭が最も多く、次いで各教室となっています。各教室での怪我 19 人のうち、授業中に怪我をした人は③の授業中は 9 人だったので、残り 10 人は授業時間以外で、休み時間や給食時間に教室で怪我をしていることとなります。

理科室や家庭科室での怪我は、調査期間中の記録に残した怪我では、発生件数は 0 件でした。

★調査のまとめ★

日本橋小学校では、「休み時間の校庭での怪我」が最も多く、打撲が多いことから密集して遊んでいるため、衝突事故が多く発生しています。遊びに夢中になりすぎず、近くで他の遊びをしている児童にぶつかってしまわないように注意することが必要です。

また、教室での過ごし方にも、注意が必要です。休み時間や授業中も衝突事故が多いため、教室もクラスによっては密度が高くなっているため、体の使い方や過ごし方にも注意が必要です。

結果は、昨年に近い結果で、**日本橋小学校ならではの「限られたスペースでの過ごし方」**に課題があります。現在、児童保健委員会では結果の報告と注意喚起を促す資料を作成し、完成したら全校児童に向けて発信していく予定です。

調査の様子



学年別にシールでけがの種類や場所で分類しました。